

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2875001501		
法人名	医療法人社団 恕和会		
事業所名	カルム箕谷		
所在地	〒651-1243 神戸市北区山田町下谷上字かんじゃ7番3号 (電話) 078-586-0753		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2007年12月21日	評価確定日	2008年1月27日

【情報提供票より】 平成19年12月14日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 13人, 非常勤 6人, 常勤換算	16人

(2) 建物概要

建物構造	S	造り
	2階建ての	~1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300000円)	有りの場合 償却の有無	有(3年)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(12月14日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 83.6歳	最低	71歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団恕和会、アネックス、西畑歯科医院
---------	------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・永年、医療に携わり地域とともに歩んできた法人理事長の思いから生まれたホームである。地元行事の子ども歌舞伎や小中学校との交流など、ホーム行事への地域住民の多数参加もあり双方向の交流が続いている。特に今年は大きなイベントを開催したり、ホーム便りの創刊号を地域自治会に配布するなど、積極的に取り組んでいる。利用者、職員とも安心できる医療体制と環境が確保されることで、今後利用者の心身状況の変化にも即対応が可能であると思われる。地域の認知症ケアの中心的役割を担っていくためにも、前向きな取り組みを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	・前回の改善課題である契約書の内容改善、理念の啓発、職員間の共有、ホーム便りの作成については改善した。ホーム便り「カルム箕谷だより」は、自治会に配布した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	・自己評価は、事務長が現場の所長、主任やスタッフからの聞き取りを基にまとめ、それを所長、主任に閲覧している。自己評価は、日々の業務での振り返りと気づきの貴重な機会であり、全職員で取り組むことは職員間の共有にも繋がる。今後の検討が期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	・初回は、ホームの概要、グループホームや認知症の基本について説明し、その後推進委員の方々の認知症に対する理解を深める目的で「認知症とは」から認知症最新情報までの勉強会を行なった。事務長が市担当者に会議の内容や進め方など、指導を受けながら毎回のテーマを決めていった。今後は、ホームのサービス向上に向けた具体的内容の意見を引き出す工夫が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	・年2回の家族会では、個別に状況説明をし、意見や要望を聞くように努めている。運営推進委員会では、出来るだけ家族、入居者代表者からの意見を出してもらっているようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	・地域自治会主催の「夏祭り」、恒例の地元子ども歌舞伎などの行事やホームでの開催行事での双方向の交流が続けられている。今年は、新しい企画として法人理事長の健康講話を盛り込むなど内容を工夫し、地域から多数の参加を得られた。ホーム便り創刊号を自治会に配布した。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・現行理念に加えてあらたに、具体的な行動指針として地域社会との交流によって活動的で、意義深い生活を支援することを掲げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・設立当初から地域との交流を重視してきた。理念と指針を常に全員が視覚的に捉えられる工夫がされており、理念を重視する姿勢がうかがわれる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・恒例行事として4月に「なごみ寄席」を開催した。自治会長をはじめボランティアや地元の住民が多数参加し盛大であった。子ども歌舞伎など地域の小中学校との定期交流においても多数の参加がある。住民からの相談も随時受けている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は、事務長が現場の所長、主任やスタッフからの聞き取りを基にまとめた。所長、主任には閲覧している。		・自己評価を現場職員が自ら行うことで第三者評価がより具体的に理解できると思われる。全職員が参加した自己評価になるよう検討が望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・ホーム主導で事務局側が毎回テーマを決めている。初回は基本的事項、ホームの説明が主で、認知症の理解のための勉強会も地域の要望から実施した。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・市担当者とは、問合せも含め積極的に相談訪問している。運営推進会議の目的、進め方や議題内容など、新規事業立ち上げについても相談、指導を受けている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・家族来訪時には、個別に時間を取り様子を報告している。年2回の家族会、運営推進委員会(2ヶ月毎)では、映像で行事や日常の様子を見ていただいている。</p>		<p>・今回創刊号として「カルム箕谷だより」を発行した。(年4回発行予定)</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・運営推進委員会が行われるようになってからは、家族会と共に運営推進委員会を積極的に活用して、家族からの意見や要望をより多く表わせる機会としている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・開設以来、主たる職員は変わっていない。職員の定着率が高く全職員が顔馴染みであるので、利用者への影響はほとんどないと思われる。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・県主催の外部研修は全職員を対象として、順次受講させている。経験の浅い職員には、個別の講習やビデオでの学習機会を作り、主任によるOJTも行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市内のグループホームとの交流は、運営方針の違いからまだ行っていない。以前から交流のある近隣の施設から要請があり、運営推進会議に認知症知見者として職員（ケアマネ）が出席している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・納得して入居された場合でも、帰宅願望は避けられないが、事務職員も協力しながら、時間をかけて本人の意思を尊重しつつ馴染んでもらうよう努めている。他の利用者から言葉をかけてもらい落ち着くこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・畑で野菜を収穫し、調理、準備や後片付け等、一連の作業を一緒にしている。手芸を教わったり、歌を一緒に歌ったり、テレビを観ながら昔のことを教えていただくこともある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・買い物等の外出はホーム全体行事として、又は個々の希望に応じて行っている。意思を表さない人は、表情を見ながら家族に相談して思いを把握するよう努めている。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・利用者個々の様子は管理システム「ケース記録」に逐一記録入力している。本人の日々の様子や会話から把握し、家族からは、家族会や来訪時に要望を聞いて反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・定期的見直しは3ヶ月ごとに行うが、入退院時等必要に応じて、利用者、家族と確認しつつ随時見直しも行っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・法人内の訪問看護が24時間体制で緊急時対応をしている。また利用者は通所介護にも参加している。外出や受診等は職員が手薄のときは、事務職等が手伝う等柔軟な対応をしている。外部への講師派遣等行っていない。</p>		<p>・多機能性をさらに発展させて、外部への講師派遣をする等地域への貢献に取り組まれることを期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・遠方のかかりつけ医希望の場合は家族と同伴で受診する。緊急時は職員が受診支援する。月2回協力医の往診がある。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入居時、家族会、状態変化があった時、退院時等あらゆる機会に本人、家族とターミナルケアについて話し合い方針を共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・声かけや介助は、羞恥心に配慮している。個人情報保護については、職員に徹底し、広報誌の写真掲載も家族の了承を得ている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・一日の流れはだいたい決めているが、外出希望や食事の時間は個々に合わせている。朝の散歩にも職員が事務職が付き添っている。特定の場所に行きたいといわれれば、できるだけその日のうちに希望をかなえるようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の一連の流れを利用者と職員、共に行っている。摂取カロリーについては管理栄養士に指導してもらっている。		・利用者の家族が食事介助しながら共に食事を楽しんでいた。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴日、時間はだいたい決めているがその他の日時も希望に応じている。ゆっくり入浴する人には声かけをして、安全の確認をしている。機械浴が必要な人は、併設の通所介護の設備を利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・調理、畑仕事、掃除、洗濯物の片付け等、得意なことやできることを役割にしている。音楽療法や日舞等の楽しみごと、リハビリ体操等を行事で披露する等張り合いや喜びのある暮らしを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・畑仕事や近くの店への買い物は希望がある毎に支援している。季節ごとの外出や思い出の場所へ出かける等利用者の希望にできるだけ対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は鍵をかけていない。外へ出ていく気配があれば、職員または事務職と一緒に散歩することもある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回避難訓練を利用者と一緒に行っている。職員にとっては役に立つが、利用者の中には不穩になる人もいる。緊急時にも対応できるよう火災時行動マニュアルを作っている。</p>		<p>・避難訓練で元気な利用者が手を差し伸べて助け合って行動していた。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・必要に応じて水分、栄養摂取量を記録している。不足している利用者には、好みの飲み物や形態を変えた食事を提供する等の支援をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・対面式の台所で、そばに職員の作業ブースもあり、共有スペースの利用者の動きが見られる。利用者も調理の過程がよく見え、良いにおいもして食欲が湧く。庭にクリスマスイルミネーションが飾られていた。庭にレンガの歩道を職員が作り、車椅子で庭を一周できるよう工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・家族の写真や思い出の品を飾る等、個々の馴染みの居室になっている。家族の持ってきた花を活け、毎日水かえして楽しんでいる花の好きな利用者もいる。</p>		

 は、重点項目。